

まだ、アニソン（アニメソング、ほどんど女声）しか聴いていませんし、そんなに知識や感性があるわけではありませんが、とても感動しましたので、持っているイヤホンに限ったものですが、300の感想を書いてみました。では、接続したイヤホンは、次のとおりです。

① C・・・・の A・・・・ 今回のポタフェスのポスターの女の子が耳にしているものです。ケーブルメーカーの A・・・・のイヤホンブランドで、BA5基です。

② S・・・・の S・・・・ もう古くはなっていますが、3年以上経過しているにもかかわらず、全く不具合のないイヤホンです。BA4基です。

③ I・・・・の A・・・・ が作っているダイナミック型です。なお、イヤピースは、1と2は茶・・・・の S・・・・ を使用しています。

①ですが、これが凄い。もともと A・・ A・・ のアンバランスケーブル が付いています。200に代えても、200経由の W・・・・ コンダクターに代えても、当然、解像度が向上し音質が変わっていると感じるのですが、それでも一般的な音質向上のように、もともとのケーブルの音質傾向を受け継いだものとなっていました。それはそれで満足していました（200ではきつすぎるので、聴くときには、200経由の W・・・・ コンダクターです。）それが、300ケーブルに接続したら・・・・。会場で聞いたときには、200系統のケーブルで変わらなかった音質というか音の置き方（このイヤホンは、本当に綺麗に水平線に音を並べるといった感じの不思議なイヤホンです。）が変わったと思ったのですが、家で聴くと、激震・驚愕するほどの変容です（雑音が多いのでそこまでは感じませんでした。）。たとえていうと、ワンランク上がったとかいうレベルではなく、コンパクトカメラから一眼レフでレンズが標準ではなく明るいのに変わったという感じです。全く別ものです。MMCXの端子のイヤホンの中では、史上最高ではないかと思うくらいです。おそらく、当初付属のケーブルの音質とは全くかけ離れているくらい大きな変化ですので、制作側が予測していないほどのレベルの変化ではないか思います。貨幣価値に換算すれば、イヤホンが139,600円、ケーブルがほぼ同額ですから、269,600円。この組合せなら35万、いや50万と言われても納得される方は多いのではないのでしょうか。良いものは、なんだか待たされることが多く、300ケーブルも待ちに待ちましたけれど、このイヤホンも、ユニバーサルにしては待たされます。私は、注文してから数週間でたまたま在庫入荷がありました。ネット上の情報では約2か月待ちと言われていました。しかも、こうした状況にあっつか、いつのまにか、F社では取扱いが終わっており、大手家電とE社くらいしか扱っていないというものです。この待ち代は、おそらく需要と供給のバランスからプレミアを付けるもので、こうした意味で、このイヤホンの中古販売額が新

品と同じということを考えると、プレミアム価格としても相応の値段かもしれません。とは言っても、このイヤホンの制作は、ケーブルメーカーですので、ど素人の私が考えただけでもタイアップするのはとても難しいと思います。残念。さて、何が震撼・驚愕なのかというと、300ケーブルの能力を十分に引き受けてくれているというものです。おそらく電気信号として、300と200の差は、とても大きな差があるのではないのでしょうか。このとてつもない量の情報をとても綺麗に処理してくれるのが、①です。一方、②は、あまりにも多くの情報を鳴らしきっているのですが、淀んで、濁ってしまいます。①を聴いて、300の最大の特徴は、音をととても正確に伝えていると感じました。それは、時間軸の進行と輪切りにした両方の軸です。耳にすることができる解像の度合いは半端じゃありません。A++純正アンプというDACの特性もあるかもしれませんが、16bit/44.1kHzのCD相当の音楽は、まさに今まで聴いていたハイレゾ、もしかするとそれ以上の聴きごたえです。聴いているうちに、ハイレゾを買わなくてもいいのではないかと思うほどです。・・・ちなみに、ハイレゾにすると、もうそこは宝石箱のような感じです。アニソンの多くの伴奏は、打ち込み系ですので、アコースティックではなく、最もそれらしく聴こえるように作られていると思うのですが、本当にそれらしく、録音状態が良いとそれ以上の曲と思うくらいです。おそらく、感ですが、②が300についていけない理由は、音の倍音というか、付属音というか、音がなった後の余韻の音が原因のような気がします。300ケーブルは、200ケーブルよりもおそらく相当正確に信号を送っているような気がします。300ケーブルは、音がなった後の余韻のような音、響のようなものが正確に表現されているというか、そもそも、音は音符のように粒だと思っていたのですが、全くそうでなく、音符どおりに演奏しても、音の長さ、強弱、速度、他の音との位相というか相関によって、同じ音はないと教えてくれているみたいです。高音も低音もそのようになっています。そして、DACの意図した音を正確にイヤホンに伝えているような気がします。アニソンだと、打ち込み系の音源が一昔前で1曲あたり100から200くらい使用され、加えて、聴こえない音源も入れられているようです。そうした多くの音源を一度に②は、綺麗に鳴らしきれず、元気いっぱい過ぎて、悲鳴にも感じる淀みを感じました。低音も前にでるようになっていたので、高音、中音、低音のそれぞれが独立して共鳴（狂鳴）してしまっているような感じです。一方、高音を淀みなく表現することが得意とされている①では、高音は綺麗に、低音は品良く余裕を持って丁寧に音が並べられ、さらに、ボーカルは艶やかで、CD相当の音源でも、テレビで言えば4K相当の表現ができているといった感じです。846は、アルプスの少女ハイジのような昔の時代の作品を4Kテレビで見ると、テレビ内部の画像を処理しても、もともとのコマ数が足りず、どうしても少しカクカクした動きになってしまうような感じです。とにかく、①と300の組合せは、感動をはるかに超え（200ケーブルを聴いた時の感動をはるかに超えます。私の乏しい経験の中では、想像できないくらい、おそらく人が音楽だと感じる音です。ですから、現実の音の再生の評価とは異なるものと思います。）、世の中にはこのような音の世界があるの

だと気付かされます。300ケーブルが①の潜在能力を十二分に引き出してくれています。全くこの相性の良さは本当にびっくりするくらいです。ですので、②やベ・・・のA・・・でも相当の効果を発揮するのですが、ことアニソンでは、①が100点なら、②は60点、③は75点といった感じです。おそらく、ジャンルや構成にもよるのかもしれませんが。クラシックは、生の音ですので、打ち込み系の音とは異なりますし、オケ構成ではなく、弦楽四重奏曲などもう少し構成が単純なもの、ピアノ協奏曲とバイオリン協奏曲によっても違い出てくるような気がします。200でも300でも、NIDEONさんのケーブルを使うと、いつも、何か大切なこととか、当たり前のことと言われるようなことを当たり前のようにブラッシュアップされていくことに驚かされます。拙い文章でしたが、ちょっとした感想文をお送りします。

職人の方々にも、感謝しております。記述したとおり、ものすごい物であることは間違いありません。ありがとうございました。